

堺市指定管理者評価表

(評価対象期間 : 令和4年4月1日 から 令和5年3月31日 まで)

1 基本情報

(1) 公の施設の名称	
堺自然ふれあいの森	
(2) 施設の設置目的	
里地里山の保全、農、散策、遊び、学習などの活動を通じて、里山と人との新しいかかわり方を考えるきっかけの場づくりをするため	
(3) 所管部局	
建設局 公園緑地部 公園緑地整備課	
(4) 指定管理者名	
ふれあいの森パートナーズ (株式会社生態計画研究所、特定非営利活動法人いっちゃんクラブ)	
(5) 指定期間	
平成31年4月1日から令和6年3月31日まで(5年間)	
(6) 主な事業	
- 堺自然ふれあいの森管理運営事業 (1) 施設の管理に関する業務 施設の維持管理、保守点検、現地調査等 (2) 施設の運営に関する業務 利用者の受入れ、市民ボランティアの育成・協働、各種団体・学校等への利用促進活動等 (3) 自主事業 小学生～高校生向け体験学習、農林産物の栽培・収穫体験と販売等	
(7) 施設分類	(8) 有料施設の有無
産業・基盤施設	有 (利用料金制)
(9) 選定方法(公募・非公募の別)	
公募	
(10) 主な利用者	(11) 市内における受益対象者数
市民	市民(不特定多数)
(12) 近隣の類似施設	
無	

2 管理運営状況

(1) 適正な管理運営の確保

ア 取組状況

平等利用、安全確保、個人情報の保護等	・開閉園時に園内巡回を行い、危険個所の解消や予防並びに、職員間での情報共有を行った。 ・また、危険生物による被害防止のために施設利用者に対して注意喚起などを行った。 ・個人情報保護については、堺市個人情報保護条例の規定に基づき、個人情報の利用目的と範囲を明確にし、適法かつ公正な手段により必要最小限の情報を収集した。特にイベント参加者の住所、氏名、年齢、性別、電話番号、メールアドレス、写真などの取扱いについては、個人情報及びコンプライアンス研修を通して職員全員で共通認識を持ち、個人情報の保護に細心の注意を払った。
職員配置、人材育成、施設の維持管理等	・職員配置については、施設運営に必要なかつ適正な人員を配置した。 ・人材育成については、自衛消防訓練や救命救急研修、人権研修、個人情報及びコンプライアンス研修等を実施し、管理運営に必要な専門知識や技術習得および継続的に能力の向上を図った。
施設の設置目的に沿った事業の実施	・「周辺環境との連続性をふまえつつ、自然環境の保護、活用、復元を図っていく“里地里山の保全”を目標とし、里地里山と人との新しい関わり方を考えるきっかけの場づくりをめざす」という設置目的に基づき、効果的・効率的な管理運営を行った。 ・また、周辺環境の変化に応じ、柔軟に生物多様性の向上を念頭に置き、里地里山の生態系に配慮した順応型管理を基本として、管理運営に取り組んだ。
その他特筆すべき取組	コロナ禍の中、作業時間や作業人数を調整する等、市民ボランティアの協働作業を安全かつ円滑に行い、里地里山を適切に管理した。

イ 市による状況分析

施設の設置目的に基づき、周辺環境の変化に応じ、里地里山の生態系に配慮した順応型管理を基本として、柔軟に管理運営に取り組んだ。また、各研修に取り組むことで、管理運営に必要な知識や技術等の能力向上に努めた。

(2) 利用者サービスの向上

ア 利用状況

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
指定管理者名	ふれあいの森 パートナーズ	ふれあいの森 パートナーズ	ふれあいの森 パートナーズ	ふれあいの森 パートナーズ	ふれあいの森 パートナーズ
利用者数(単位:人)	29,238	25,039	24,818	29,413	—
稼働率(単位:%)	—	—	—	—	—
利用者満足度(単位:%)	99.0	96.0	99.7	98.9	—

イ 取組状況

サービス向上、利用促進	・園内の動植物調査を定期的実施し、それらの結果を元に森の館内に自然情報を掲示し、来園者へ随時情報提供を行った。特に、園内に生息する生きものの紹介や解説だけでなく、実際の調査器具や調査方法の解説などは来館者から非常に好評であった。 ・また、レンジャーと来園者と気軽にコミュニケーションを取りながら自然や里山に関する学習の機会を提供できるよう、野外でも巡回時に質疑応答や解説対応(フィールド対応)を積極的に行った。
意見・苦情・要望等への対応	・日々の業務に反映できるものは要望に応えられるように善処し、イベント内容などに関する要望については、個々のイベントでのアンケート結果なども勘案し、今後の運営会議等の場で関係者間で協議の上、段階的に検討していくものとした。 ・その他、園内の自然情報や季節の見どころなどに関する要望については、来園者に口頭で説明するほか、SNS等での発信を実施した。
その他特筆すべき取組	南部丘陵の担い手育成の試行として、大学生が講師となり中高生に里山の保全プログラムを実施する取組を行った。指定管理者は講師役の大学生に対して、調査スキルやイベント運営のノウハウなどを事前にレクチャーするなどサポートした。

ウ 市による状況分析

- ・広報についてSNSを活用し、適宜、発信内容等の見直しを行い、施設の認知度向上に取り組んだ。
- ・また、南部丘陵の新たな担い手育成の試行的な取組として、大学生と連携し、中高生に対する里山の保全プログラムを実施する等、積極的に取り組んだ。

2 管理運営状況

(3) 収支

ア 収支状況

(単位:円)

■ 指定管理業務

		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度 (予算)
指定管理者名		ふれあいの森 パートナーズ	ふれあいの森 パートナーズ	ふれあいの森 パートナーズ	ふれあいの森 パートナーズ	ふれあいの森 パートナーズ
収入	指定管理料	35,612,036	35,924,074	35,924,074	35,924,074	36,924,074
	利用料金	0	0	0	0	0
	負担金	0	0	0	0	0
	その他	445,483	98,023	129,544	175,799	264,400
合 計		36,057,519	36,022,097	36,053,618	36,099,873	37,188,474
支出	人件費	21,709,738	21,488,501	21,343,500	22,023,925	22,198,640
	委託料	3,023,344	3,160,676	4,639,956	4,251,536	4,242,296
	総支出額に占める 委託料の割合	8.6%	8.9%	12.9%	11.8%	11.4%
	修繕費	1,014,893	1,633,434	2,134,852	1,807,116	1,720,000
	光熱水費	1,091,610	1,196,996	884,591	1,229,390	1,320,000
	その他	8,328,092	7,864,586	7,044,331	6,783,431	7,707,538
合 計		35,167,677	35,344,193	36,047,230	36,095,398	37,188,474
収支差額		889,842	677,904	6,388	4,475	0
(市への納付金の額)		585,107	—	—	—	—
(徴収委託の場合の徴収額)		—	—	—	—	—

■ 自主事業 (有)

(単位:円)

		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度 (予算)
収 入		532,350	285,546	352,947	516,763	523,600
支 出		210,431	333,298	295,083	506,164	407,000
収支差額		321,919	-47,752	57,864	10,599	116,600
(市への納付金の額)		—	—	—	—	—

イ 取組状況

経費の縮減、経理事務	自主事業の収入は、コロナ禍前とほぼ同額までに回復した。3R(リデュース、リユース、リサイクル)の取組や節水・節電の取組を積極的に実施し、委託業務の見直しを行うことで経費削減に努めた。
------------	---

ウ 市による状況分析

広報についてSNSの積極的な活用や、自主事業のイベント参加希望者の増加に対する柔軟な対応等により、自主事業の収入をコロナ禍前とほぼ同じ水準まで回復させた。また、節水・節電等の取組や委託業務の見直しを行い、経費削減を行った。

3 目標管理、総合評価

(1) 目標管理

ア 仕様書で定める目標の達成状況

■適正な管理運営の確保

指標	目標	実績
有責事故発生件数	有責事故発生件数0件	有責事故発生件数0件
遠足等で来園した小学校数	30校以上	28校

■利用者サービスの向上

指標	目標	実績
来園者数	3万3千人以上	29,413人
利用者満足度	来園者の満足度 90%以上 イベント参加者の満足度 95%以上	来園者の満足度 96.2%以上 イベント参加者の満足度98.9%以上

■収支

指標	目標	実績
適正な経費の支出	事業計画に基づく適正な経費の支出	事業計画に基づく適正な経費の支出

イ 市による状況分析

・コロナ禍の影響により、小学校数・来園者数の目標を達成することができなかったが、コロナ禍前の来園者数に戻りつつあり、SNSを活用した施設の認知度向上の取組等を行った効果があった。
 ・利用者満足度では、一般・イベントアンケートにおける満足度は高水準を維持しており、職員の丁寧な対応やセルフガイド教材が評価されたものと考えられる。

(2) 総合評価

目標の達成状況のほか、管理運営状況も含め、以下の評価基準により総合的に評価を行う。

	指定管理者	所管課
評価	B	B
評価の理由	満足度及び有責事故発生件数、収支は目標を達成した。一方で、コロナに禍の影響により来園者数及び小学校数については目標値を下回った。	・来園者数及び小学校数は未達成となったが、満足度及び有責事故発生件数、収支は目標を達成した。 ・SNSを活用した広報等、業務の改善に向けて積極的に取り組んだことは評価できる。 ・南部丘陵の緑地保全の担い手育成として、周辺地域の大学生と連携し、中高生に対する里山の保全プログラムを実施したことは評価できる。
今後の取組	・来園者満足度の維持・向上のため、引き続き職員による丁寧な対応を心掛けるとともに、イベントに参加しなくても森を楽しめるよう、セルフガイド教材の充実を図る等の提案を行う。 ・南部丘陵の拠点施設として、新たな担い手育成として、参加する大学生の幅を広げるため、近隣の大学等に声かけを行い、より発展させた取組を行う。	・引き続き、来園者の満足度向上に努め、大学生との連携事業等の継続や企業との新たな連携等の取組の発展などに取り組まいたい。 ・SNSのさらなる活用に積極的に取り組み、施設の認知度向上等につなげ、来園者数や小学校数の増加を図られたい。

評価基準	A 仕様書で求める目標や水準を上回る管理運営がなされ、優良であるもの
	B 概ね仕様書で求める目標や水準どおり(80～100%)の管理運営がなされ、適正であるもの
	C 管理運営が仕様書で求める目標や水準を下回っており、努力が必要であるもの
	D 管理運営が適切に行われたとは認められず、改善が必要であるもの